



歎詞裏見葛切葉

五

^ 13  
3102  
3



金喜

羽 村忠

敵討裏見葛葉卷之三

曲亭馬琴戲編



信太庄司茶紙尼天の法を御すと附たり石川  
悪右衛門の祭殿を聞か事

かくし信太庄司の領主の家隸とて小路をゆく小奴隸と勤平もその日  
のうち小追つたて。まうらつて河列矢田部小到り。く定邦か。庄  
司小對面。嚮ま。れ血氣の勇小。其許の諫成用ひ。今  
ら後悔。その故。如此。あり。宮本。手枝。在。お  
白瓶。大和川。沈。兩顆の玉。首尾。を。お

いなり碑なるもの一顆あり。今一顆の失するの疵の元其の所為ありや。  
別小盗人ありや。このる輩くばせぬとせむ。庄司審小うけぬ。そ  
が師加茂保憲教誡を送りし。人の為小吉凶禍福を境を許され  
む。ねがうく別人小向せぬ。と申されば定知はもあむ。いなり不  
あむ。と餘人の向中もあむ。これれは領主のつと。殊さう去年の夏は  
馬前小生むる求むる小吉凶を境示し。この度うけ引るもそるは  
が。只顧謙退しとせむ。とて示し。いなり庄司又いなり  
宣ふ。去年の六月楠本を焼く。あひぬあるの海あり。と  
小強くとも程をゆえまぬ。いなり小却る罪とせむとあり。

昭和九年  
七月三日  
購求

ぶ。これを贖んぬ。小せ用の説をせしむ。師の誠を忘れぬ。小似れ  
ど彼と是と同日の論あり。とていなり許し。いなりと固辭し  
いなり定知さう小聴入む。いなりとていなりを盡く。清りあり。程小  
庄司も終小送る。小道あり。あむ。いなりその二成や。いなり殿小彼疵の  
死し。いなりと母也。いなりと白痴の人小助けられ。幸小万死を脱して  
いなり且彼疵五百歳と程く。その性尋常の野疵のどくあり。と信  
義をせむ。いなり人間も勝るとりて。元其のどくあり。いなりとて信  
棄ひ。いなりとてせむ。いなり先非を悔く。いなり返り。いなりとて  
いなり碑。いなりと庭前へ投捨あり。いなりとていなりを捨あり。いなりと

其の葉巻三

二

のちよハ彼も又明白小拾り。又二顆の玉ハ別小盗人あり之千枝丸と  
やうん小ぬれ衣城着せると母母。とどが定邦焼く感激。その  
盗人の誰あうん。溜やう小若城やせと。小庄司不そのあ許を  
ぬこれに頭まのら任小あう。苟も人の非を擧て己が利とを  
求く徳を損め。やまんらひもよらぶといひけ。既小退た出  
んとまるを定邦と小引と。縦盗賊分明小志と。ともそのあで  
小とり復さ。あう罪とる。あうべう。あう。其許の徳を損  
あもあう。又あう。あう。白狛。あう。永くその崇と  
稟ん故小其許を受とる。あう。あう。固辞ゆいと。あう。

頼とびゆる小庄司も慙小のひせく。脱れまきれども脱が。あう。  
沈吟あう。あう。あう。盗めるの。あう。あう。あう。あう。あう。あう。  
名を指とも。輒く罪子伏さ。あう。あう。あう。あう。あう。あう。  
尼天の法を。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。  
く祭殿子集會殿。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。  
あ賜ら。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。  
あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。  
盗賊頭。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。  
世に去り。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。あう。



信田庄司の定邦が家康を  
 集會茶社尼天の  
 法を修して玉を  
 盗りしを  
 ありしを

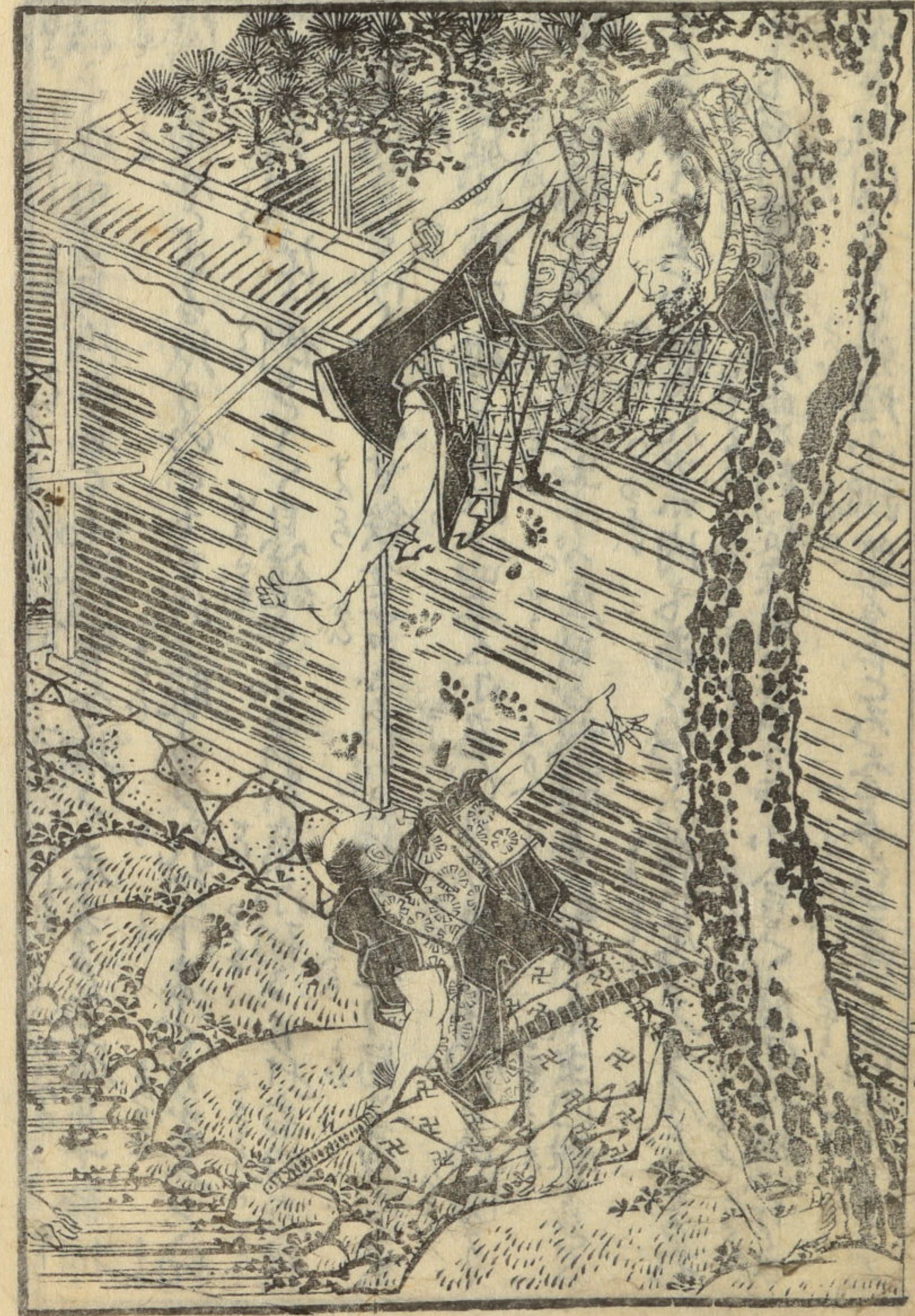
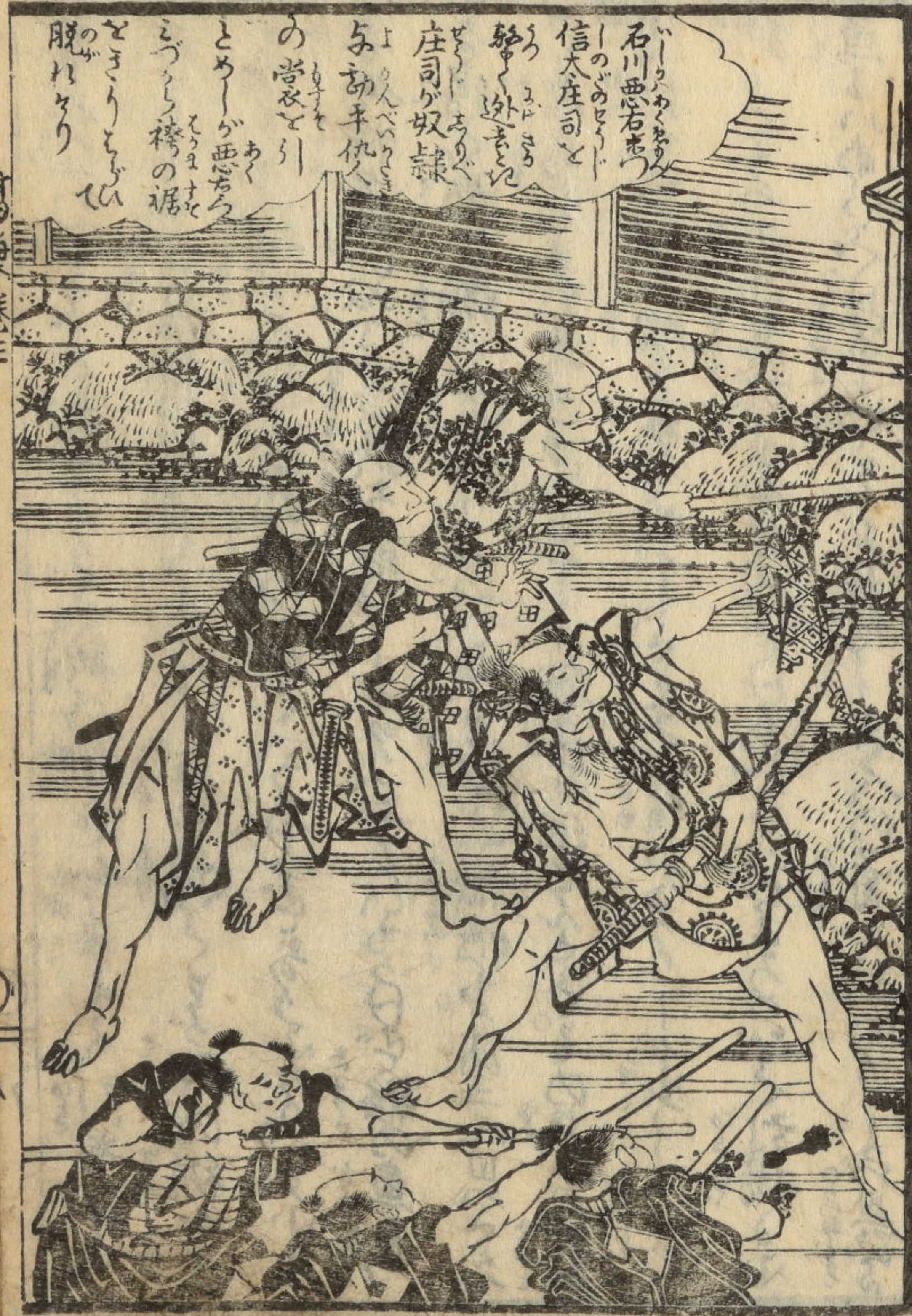




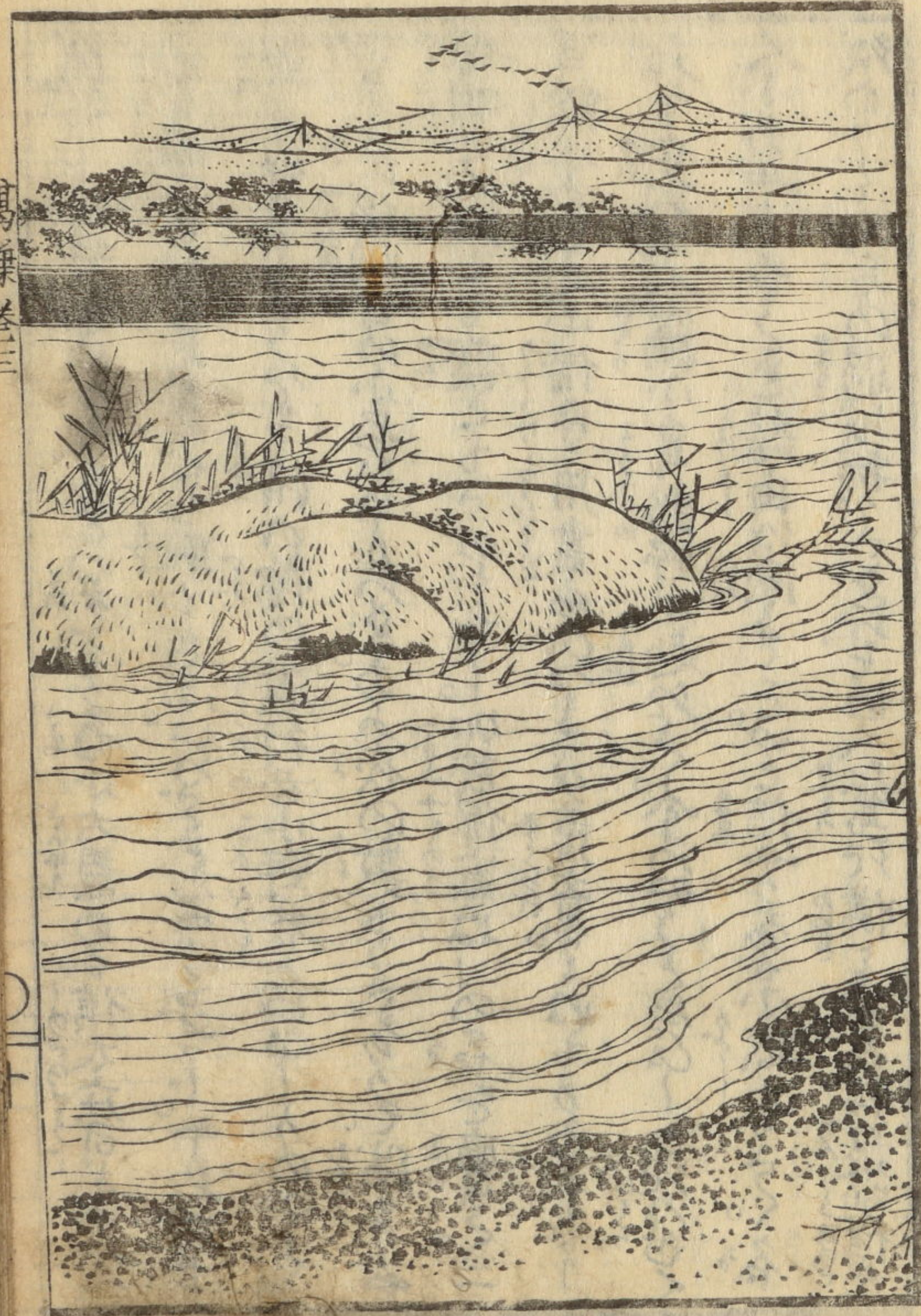
おきおるごころ小華ひめぶくごころいびごころをうけぬりぬと答たり。  
かくて庄司の茶祇尼天の法を被さるる二時中その日七申の下刻  
小みりごころあてる幣あつごころ左(右)と動くごころあつら入の揮が  
如し。乃小母ほえあだりのもこの光宗をうくごころ畏(駭)然  
ごころ観る小悪右つひごころごころあり。二世の浮沈ごころ小ありと  
あつら入ごころ小面も常よりつひ。兵被幣小同も放ごころ腹つを  
て居つらごころ小幣の動くごころ急やごころ既小ごころ方小倒  
ごころらんごころせごころ小悪右つ満面朱を死今わごころとごころれが  
飛鳥のどごころ花ごころりごころ飾あつらる宝剣をとりごころゆもえごころ引

振る庄司が首派あせごころ。以髪を掴ごころ走去るを庭井十郎押  
隔組あつらごころとごころ成りごころともごころ二腕ごころ乳の下まごころり尖あごころ切  
つごころ撲地と倒ごころ息絶ごころ。それ席小列るれ右往左往  
小驚らごころげごころ身小才鉄を帯ごころれごころれを遮りあつらごころ  
ごころ矢庭小瘳ごころ被るれ十四女小るびごころり悪右つひごころ隙  
軒く切枝ごころ外面(走出)ごころ庄司が奴隷と勤平ごころ主の轂  
ごころとごころあつらごころ小驚ら茶内もあつらごころの席(走)ごころ入ごころとごころお  
ごころ石川悪右つひ血の引提庄司の首を小含ごころ庭の松枝(片)ごころ  
きうけごころ内りごころ染垣小跳ごころあつらごころとごころを帯あつらごころ主の仇人ごころ









萬葉卷三



あべのやすら  
 女倍保名  
 やまとい  
 大和門にて  
 細い人乃  
 首を引け  
 大ふあ  
 しと且  
 あはれ  
 懐く家  
 小推  
 久













く家小病も腰も〜〜恩もさきから〜〜  
 放りく舅の仇を素〜〜まづ〜〜御小まうり母小  
 も昔〜〜夫の志もわぐ夜の食も〜〜中  
 陰の終〜〜せしめけりぬ〜〜も猶豫さ〜〜と  
 小手勤平も〜〜とれ〜〜下高〜〜ととも知安のまの高  
 恩を行〜〜仇人の面を〜〜認り〜〜もさ〜〜とあ〜諸國を  
 編歴〜〜悪右〜〜住処を〜〜定め走〜〜ろとさ〜〜や〜〜  
 へ家小〜〜母の看病もあ〜〜何の妨も〜〜と主従〜〜

く〜〜更〜〜もゆ〜〜れば保名も返さ小も怒る〜  
 を〜〜引〜〜かく〜〜あ〜〜席と改る隙小と勤平を後を  
 得〜〜土畀を〜〜とせ〜〜葛は夫庄司が首と物の〜  
 居〜〜び涙〜〜ら〜〜が〜〜胸を授〜〜せの人の誓  
 姻小蓬萊の嶋堂小鶴亀の齡を〜〜玉椿の八年代までもと  
 祝ひ〜〜む小引〜〜歎小結が妹夫の席小〜〜ある舅の首の〜  
 縦〜〜を鬼小あ〜〜と〜〜や〜〜と〜〜と〜〜涙  
 を〜〜顔を袂小押あ〜〜葛の葉も志のび〜〜と泣  
 志〜〜葛も志を〜〜と〜〜や〜〜と〜〜哭を〜〜



まきすあつとわいせん  
 矢葛ハ夫の遺言よ  
 よろしく 庄司が首級の  
 まふて 女兒葛の  
 を保名か毒あらせ  
 いへ 家の  
 正しく保名小授  
 々々

九九八十一  
 八九七十二

その盃さかづき智ちどの進すすらせぬやとと促うながせば葛くわのきも頭を擡とる  
 盃さかづきのももあらうらる酒さけのり落おちる涙なみだも溢とるをうらふこし三  
 九こ度たの倍取とりま終はびの儀ぎ式しきのを智ち別べつ々々進すすらせんとま  
 葛くわのかてしをこもててて簠ふ盃さかづき金かね鳥とり玉たま兎うの西秘ひ書しょ小こ茶ちや紙し危い天てん  
 の法書しよをもらう出でくを保た名な小ことと保た名なの只官くわん満まん足そく  
 この夕ゆふ也やとも小せう庄じやう司しが首を送葬さうして次つぎの日保た名なの母の申  
 んのとあく直小せう之ち婦ふとんとく別べつを告る小と葛も敢とらんべ  
 ちとら葛のきも伴ひぬに身が母の彼がぬも母あり夫  
 婦ふのりとも小せう之ち婦ふとんとく冊さくに進らせば一とらば葛のきも

又またのんとらふを保た名なとく固こ辭じといひて進すすらせぬやとと促うながせば葛くわのきも頭を擡とる  
 葛くわのきもおてゆらぶといふと寂せき寥れうといふと海うみをららぬいふといふと  
 残のこ一いちとくらふと葛くわといふと家いへといふと勤しん平へいありいふと目め  
 在あらはせしとも海うみをぬくと保た名なのあはらへる茶ちやを書して  
 之こ更さら小せう從じゆうといふと彼かを時らうつて日ひ七しちや西小せう傾かやうといふと今いま  
 一いちと夜よといふと母ははのりといふとといふとあらはれば一夜よをとめても退り  
 あらうくの間も惜といふと彼か秘ひ書しょといふと裏うらといふとといふと以も資し  
 負おひ草鞋ぞうじ穿き穿きといふと葛くわといふと海うみをぬくと海うみの終をうらふといふと  
 固こえ筈といふと載のりといふと出といふとといふと外あひ日七しち西せい小せう入いといふとといふとといふと

殊さら路をいそいで。津の郷まゝ來りし時道の次ある言  
刺より人の男立せく。年法螺を高く吹くをえんをさげの  
扉小接待風爐とら。四ツの文字を紙小字と貶せたるは  
奇ある法らうなとら。その故をきくもる。歩まらうて被  
男小縁由きるせむ。その人答く。我がこの寺に千枝丸とら。成年の  
この子當方のとら。住持の聖撰別より拾ひ来く養ひあひつね  
父母誰ともある人あり。只後の證とら。苗やん一枚の紙小。  
和泉ある信太の森の楠の千枝小とら。物きこを勢り  
とら。せり。より。住持の成年の名を千枝丸とら。ひひい。とら。

ある小去年の夏領主矢田部殿の懇望より。彼らとら。あり  
小近曾殿より預て奉りし。印を碎けつ。罪科小あり。とら。  
あくも首を刎られり。その縁故の楠本の神の祟り起り。新糸  
の島亦石川悪右衛門が奸計めく。千枝丸ぬれ衣を被るる。後  
小斐覚殿もいとき。とら。あひつ。九骸をぶと。小送とら。築らと  
あり。この寺に正覺庵とら。極く貧地とら。彼人のあふとら。  
追善の法延も因にたふりて。今宵風爐城とら。里人行客  
の隔あ。清とら。んぬ。今のとら。法螺を吹く。彼此人を集會る  
ゆと。首尾を物づく。保名とら。とら。それ知成とら。

一人の弟ありしが遠國の入り養せし生元定りたる事あり。母の物ぐらうしく粗末を被少年も撰別しく拾られり。らふ外の事とも母の心せむ。且も其も非命小死し。其の供養もせむ。とて暮るる日の日さるる事ともいふ。結縁のおこの風爐小入る。志も煩惱の垢を落しやと。この男小従く裡小入る。庫裏の前小。二ツの風爐と居火を焼のあり。水を汲めれあり。従もある。里人さる。行僧。客の病とも小彼此より集會する。これ老小と信せむ。ひの外込のひ。従小保名もとる。浴をり。衣

と彼く。驚のどくお扮老僧小礼謝く。寺門を走り出さる。うら戴く。夜々り小路をいそが十五六町も来つ。んとあれ。も忽ち後より松ありて。人夥しく棒を引提て。悪右衛門を脱。さあとなつ。保名の耳を側て。石川悪右衛門あつ。おん。おん。男の仇人。彼の路へ来。つ。んとあれ。と。おん。おん。緩ぶ。志も。停立く。との入。をま。つ。小。追捕の農民や。ら。つ。死をれ。悪右衛門。汝子の邊小徘徊する。あ。あ。あ。つ。小。あ。つ。る。と。千枝丸が追善小托く。風爐の撰待。彼此人を集會。領主天田部殿の命を稟たる。村長が謀。汝益か。面をか

くまも衣い服ふくの摸も搦な肖像しやうざう小こつゆふふど。今いまのよ脱だつきとく。  
声こゑと小こ馬まとひと小こ對たいく物ものいふとくはあふ小こと保たも名なあうあや  
しつしつ近ちかづく松まつ明あきら小こもどちくつう衣い服ふくをいれがはつら小こ背せ  
負かかひる行い色しきのいろまもももくく似にれどまぶくく物ものあふあふ  
小こ彼か寺てら小こ信しんとと死しんんとと圖ずまま死し小こ保たも名なく衣い服ふくもも包たぶと  
るるちちくくちちくくちちくくちちくくちちくくちちくくちちくくちちくくちちくくちちくく  
とど農のう民みん小こ競けいひひちち棒ぼう内ないくちちかかれれ保たも名なももひひまま援えん  
ゆゆとと充ちゆう右ぎゆうと柱ちゆうゆゆとと彼か火か勢せいいいひひちち遂つい小こひひとと落らく  
これ肩かた腰こしののちちももちちとと打うち卧おられれ摸も地ぢと倒たふれれ息いき



絶たふり。縛しばりりとと棒ぼう投な捨す一人ひとりまぶまぶ走はりりとと保たも名なもも差さき  
搔か遣ぢ捨すれれ衣い服ふくの摸も様やうををくく似にれれのの面おも影かげのの悪あく右ぎゆう足あし  
が肖せう像ざう小こ等とうりりとと人ひととと一いつつつとと呆ほうれれ果くわ互ご小こ馬まりりああひひ  
ああととととををままととままとと抱かか起おこくくととままととままとと小こ勲いんれれどど  
既す小こ緯ゐ断たられれ大たい小こ驚おど死し怖おそれれくくああとと認ま得とどどととまま  
一いつをを死し人ひとををおお殺ころせせりり。とと誰たれかか罪つとをを逃のがるる死しととあありり  
人ひと小こままりりれれちちととままりりああひひ衆しゆう皆け松まつ明あきらおお滅めくくああののがが家け路ろ  
小こ逝しららりりぬぬるる保たも名ないいとと臆おそれれををおおひひ志しをを絶たふ入いりりて  
あありりるる小こ一いつ滴たつ露ろ咽えん喉くわい入いるととああららええとと甦そ生せいしし忙ま然ぜん

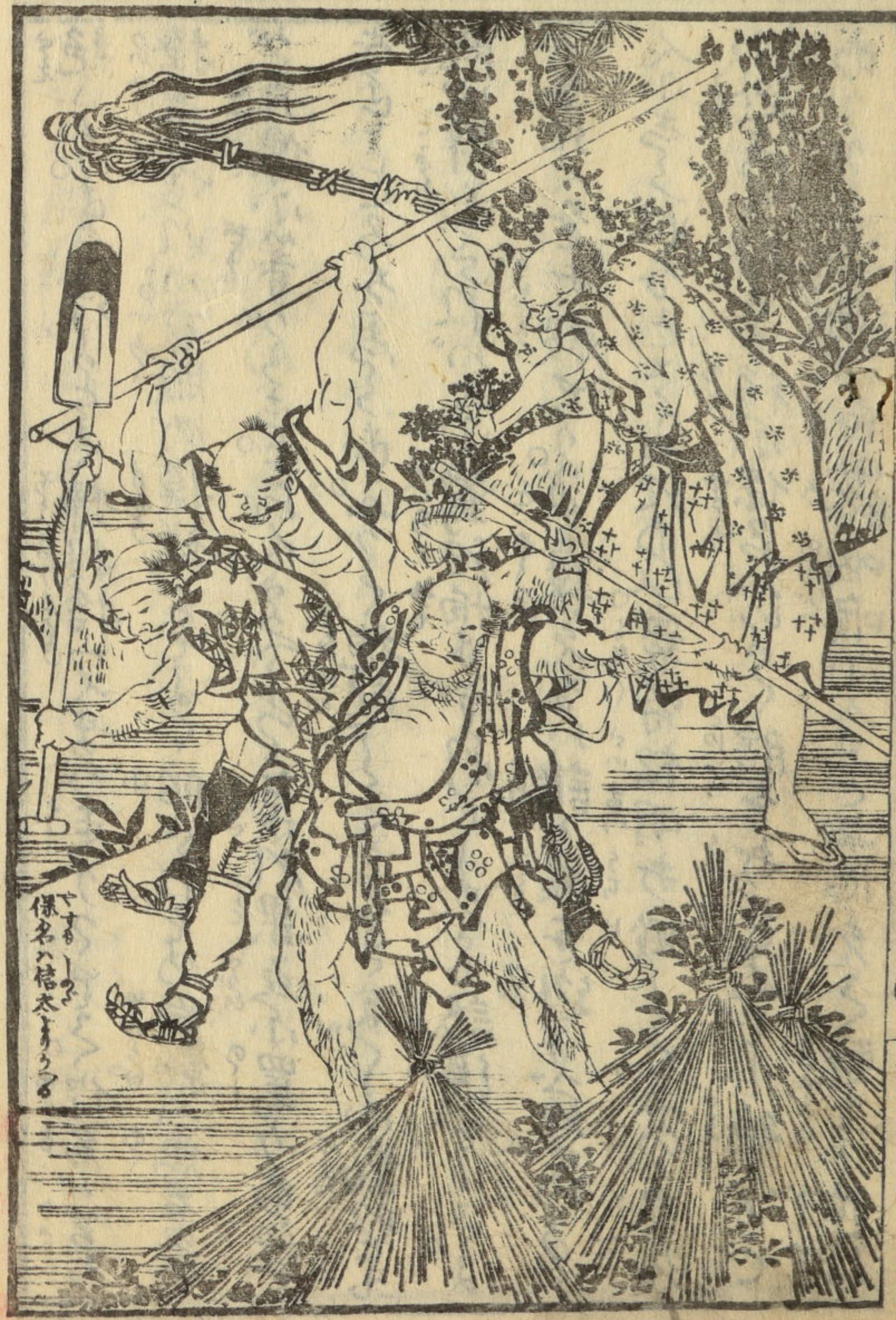
其島集 卷之三



其母

途で影の農は  
打擲せし自他  
高の葉生  
あつる思へ

介抱せり  
射



保名信太  
下

十一

と一と四を成えしね。月もついで山の袂を照し。それを勦  
りけり葛の紫小くあつて一づあつてふふがう。と信太との  
路も道小隔るるを。此身も一とついでこの危窮をありて来た  
まひつる。よ夢もついであつて中とついで小葛の紫の夫の今と  
ちつたるをささくあつてよろこびう抱けるよを緩くこの  
疑ひぬめもささくあつて。鶴小くあつても伴ひぬとやつれと君  
さう小うけつねあつて。ささく婦小三従とついであり。縦いさ  
つ小寝ざとついで。此身が妻小くゆるりのを姑の病て  
坐するとついであつて。あど外小く居るべたのうと母の許

を受夜を侵して夜を慕ひまゐらせ。小あつてもと小絶  
つりくあつてもあつて。驚馬に悲を抱け起して泣水を掬ひに  
づう欣で進ませ。いんとちのつたぬるこそうけつねとつた  
保名つとく嘆息。此身も小あつてもあつて。あつてもとつた  
くる危難小あつてもあつて。如此このものごとく。正覺庵小く清世  
より。追捕の農民小お擲せつた。ささく首尾を物づつた。  
が衣服の惜小く足らつて。紙包をもとり恨みめてあつてもとつた。  
譲つて受くつた。秘書どもささくあつて。此身小あつてもあつて。面  
目あり。ともこの包の行人の行囊と。小後小索る便とあつた。





ろくや只今隈會あふともかく悩む事とあれが屋を遂た  
まらんゆふりとあく侍。とうく阿部野ふまうりてうとねと  
るを計りあふとも逃にふあうとと諫む保名もやうやくとひ  
とまう。いひがひあくも葛の葉がひらけ有をちうりゆとあひ  
運も果敢とていど。そのり阿部野へ到るより五里不足る路を  
とどその夜も既ふあけゆとて。まが家ちうく帰り来ふり。

羽

敵討裏見葛葉卷之三

畢 全喜

